<table>
<tr><td>授業科目名：保健体育科指導法Ⅳ</td><td>教員の免許状取得のための必修科目</td><td>単位数：
２単位</td><td>担当教員名：
髙木由起子・内田匡輔
担当形態　オムニバス</td></tr>
<tr><td>実務内容
（実務家教員の場合）</td><td colspan="3">内田　匡輔：中学校教諭　５年　特別支援学校教諭　４年　非常勤教諭１年６か月（高校・特別支援学校）</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める
科目区分又は事項等</td><td colspan="3">各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）</td></tr>
<tr><td colspan="4">「学位授与の方針」との関係
・多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。
・個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。
・共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の到達目標及びテーマ
　中学校、高等学校でより具体的で質の高い保健体育、または保健の授業を計画し、実施するために知識、技能の習得を第一とする。また、体育科教育の目標と内容の理解し、より良い授業づくりにつなげるための指導方法の工夫について考えることを第二とする。
　上記の２つの目標に到達しているかを、模擬授業や学習指導案を作成する過程から総合的に評価し、保健体育の授業遂行能力を身につけることが本授業のテーマである。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要
「スクーリング」：シラバスにある通り、「体育科教育に求められるもの」や「すぐれた授業」といった、授業を実践する上で教員として理解しておくべき最低限の教養について理解を深める。
　その上で、学習指導案を作成すると同時に、学習成果が高まるための教材研究や開発を行っていく。最終的には、これらを総合し、参加学生を生徒に見立てた模擬授業を実践し、授業遂行能力を身につけられるようスクーリングを行う。
「レポート」：指定された教科書を熟読し、必要な用語や知識を確認し、高等学校段階で生徒が学ぶ内容を最低限理解した上で、レポート課題に臨んでもらいたい。
　なお、クリティカル・シンキングとは、単なる非難でもなければ、あら探しでもない。教科書に書かれていることを、無批判的に受け入れるのではなく、自分でよく考えて正確に理解・判断する思考方法である。よって、教科書に書かれている内容をより深く学ぶためにも、クリティカル・シンキングを働かせ、複数の情報源から得た情報や科学的根拠に基づいた思考過程をレポートとして示してもらいたい。</td></tr>
</table>

授業計画

第１回：運動の意味と価値。文化としてのスポーツ（体育理論の基礎を教科書に学ぶ）

第２回：スポーツの技術と戦術、トレーニング。そして生涯スポーツへ（体育・スポーツについて教科書から学ぶ）

第３回：現代社会と健康。健康の姿とその具体（保健理論の基礎を教科書に学ぶ）

第４回：生涯を通じ社会生活と健康について。（健康の保持増進の具体的なあり方を教科書に学ぶ）

第５回：新学習指導要領改定の背景と保健体育科の使命（学習指導要領に学ぶ）

第６回：体育科教育の目標と内容

第７回：授業に求められるもの

第８回：すぐれた授業とは

第９回：マネジメントの技術

第１０回：保健体育のカリキュラムづくり

第１１回：教材研究と指導案作成

第１２回：模擬授業

第１３回：評価と評価活動

第１４回：体育授業指導方法の工夫（教材・教具）

第１５回：体育授業指導方法の工夫（実技指導）

定期試験

スクーリングでの学修内容

体育科教育の目標と内容を確認するとともに、良い授業づくりにつなげるための指導方法の工夫を行う。具体的には、保健体育のカリキュラムづくりの確認や教材研究を行う。また、学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業を行いながら評価と評価活動について確認する（主に、11.12.13.14.15 回の内容を含む。）

教科書

『新高等保健体育［保体 702］』大修館書店

＊クラスルーム課題及び事前レポート、スクーリング時に必須

『体育科教育学入門　三訂版』大修館書店

『学校保健の世界　第 2 版』　杏林書院

『中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　保健体育編』　東山書房

『高等学校学習指導要領（平成３０年告示）解説　保健体育編　体育編』　東山書房

参考文献

・文部科学省『中学校　学習指導要領』東山書房

・文部科学省『高等学校　学習指導要領』東山書房

・子どものからだと心白書　2020　ブックハウス HD

【2018 以前の白書も有効である】※　保健の教材研究には適している。

・健康フィットネスと生涯スポーツ　大修館書店

※　大学生が学ぶべき保健体育の基礎知識がまとめてある

・体育授業を観察評価する　明和出版

※　体育実技授業を客観的に評価する視点についてまとめられた唯一の書籍

・教養としての体育原理　大修館書店

※　保健体育の歴史をわかりやすく解説しまとめてある。

・『中学校　新学習指導要領の展開　保健体育』　明治図書 ・学習指導要領改訂のポイント　高等学校　保健体育　体育』　明治図書
学生に対する評価 レポート評価（２５％)、スクーリング評価（２５％)、科目修得試験（５０％）の割合で総合して評価する。